誹諧其傘　一

へ5
2154
1

今流行高田馬場ニ於て
金子落候ハゝ[illegible]
急ニ引て一抽代々[illegible]
又ハ或ニ千許と[illegible]
高侍様合[illegible]
付ては一致[illegible]
守ル多許包[illegible]
[illegible]
[illegible]

誹諧〇〇

明治〇年〇月廿四日
藤町 潮

今誹諧當國に充満して
昼夜わかつ事なく指ひ
興しては一曲風流に十謡
とも或二十評ともいふ事
當時指合吟味をよく
にはなく一致せさる事も有圏
ふては多評も事止ぬれは
是風雅の道も漸くすたれ
此へ門葉中の乾の枝
貴人命を漸く揚なむ精

業武の宗匠中に掟して歌
并連歌より二句去三句去
挟み句数など書して多く
去り嫌ひ採出しけれは
是則當時誹諧一統の
掟也又百韻も一句二句は
あまりまゝ去嫌ひは
いかにも是に多くあれと
古書家にも学ひ安からん無き
粗平穏に案じ給ふへし

月流れにくき所あらは
松の新法一門にてこそ
連歌の新式并言説に
混じし郷係ゆ傘とい又俳
くにかゆ母こしく成時の氣
衍も出る所の要略なり
是格離れ的中をかし
全体の縛まれたるをこそ
いかにも千々の内生中の為
まさに一魚に従ふ

蓋此書ハ祖師貞徳百韵
の古風を伝ふ席とし又
これを載てその傘ある
一事と號芭名會
貞山云

元文三戊午春

俳諧其傘目録

一 當時句案并句數之事
一 越境トハ付て一句より二句隔をいふ之部と云て委し
一 二句去トハ付句より二句隔をいふ 詳に云て委し
一 三句去トハ付て八ツしかも三句隔をいふ之 詳に云て委し
一 字去トハ付合より三句隔をいふ之 詳に云て委し
一 五句去トハ付句より五句隔をいふ之 詳に云て委し

一 面去トハ百韻八面の一ト面をさるといふ
但シ表モ一面裏モ一ト面ト呼ク表裏の
面ニハ何れも只一ト面を隔ス面の事也
一 折去トハ百韻四折の一ト折をさるを云
一 一ツ二ツ四ツハワトハ示しくの雑字によりて
百韻ニハ何ともいはね之
一 折去 面去 七句去 指折面ハかけてハ
各字去デゆるし二句去三句去ハ
式ニ去之 式ニ去トハ式目ニ嫌フ事也
一 訓ニ四ツ有ル物ハ音をも四ツ嫌ふ之
百千万の字のごとし訓音かけてハ
面去ル之余ハ句准之 いろは韻ニ委シ

一 非神 非尺 非人 非恋 非植
一 非山 非居トハ夫々よ不嫌事也
但 神トハ神祇の略字
尺トハ釈教の略字 余ハ准之知るべし
一 器財よく付るの詞
一 支流よく付るの詞
一 名所よく付るの詞
一 正花非正花の詞
一 月非月の詞
一 神祇非神祇の詞
一 釈教非釈教の詞
一 無常・哀傷の詞

一 述懐懐旧非述懐記
一 恋非恋記
一 人倫非人倫の記
一 衣類非衣類の記
一 居所非居所の記
一 山類非山類の記
一 水辺非水辺の記
一 夜分非夜分の記
一 四季の詞の記
一 雑の詞の記
一 季を取捨有ル事
一 年中諸國祭祀
一 句法 歌仙 百韻 四十四 七十二候 源氏 等
一 餘興の事
一 同字別吟の事
一 付字ト云事
一 色紙たんさく認事
一 絵巻物の事
一 賦物の事
一 五義 六義の事
一 古哲発句
一 発句切字の事
一 四季発句
一 いろは寄せの記

一書々俗ニ五ケ條書抜

以上

○漢和和漢の事

大既古書にあられども数ある
めよして童蒙ひがかし
委しく書追る別ニ可出ス

誹諧其傘巻之上

藤野潔

○打越嫌之　越嫌トハ付てハならぬ二句去テ云也一句ニテモ捨ル

天象　日月星　紹立ニ委ク記ス
天虚ホ

降物　雨雪霜　仝
時雨白露ホ

聳物　雲霞ホ　仝
霧ハ降物ニモ成ル

人倫　市親人倫　仝
芸名ハ非人倫

食類　[illegible]　仝

旅体　[illegible]　仝

無常　[illegible]　仝

衣類　衣ニ袖襟ホ来ニ付へからす
衣ニ袷袴帷子ホ来て付へからす

時分　[illegible]

長澤蔵書之記

遠　二句より五句モ隔一句ニテハ不捨
三句去なれバ当時点れバ二句ニテ免ス
恋部　神ニモ釈ニモ　天象同前

○二句去之部　付句より二句嫌を云

異色　異色の嫌ふ分ても不白　色里の名
ギヤウ　ヤリテ　アサマ　なとの名

書体　文字の嫌　書籍　絵　草紙
文庫　筆　墨　硯　等之

火体　焔　灯　巨燵　火桶
炉　煤　炭竈　等之

風体　吹風なれバ　さらし　扇
団扇　植物の事　霜　等之

病体　薬　煎　井　入湯　枕ア　療治　等之
仏　嚔　瘧　嚔　按　等ハ　非病体

○三句去之部　三句隔一句ニテモ捨ル

神祇　非神モ部立ニ合し

釈教　非尺モ部立ニ合し

山類　非山モ部立ニ合し

水辺　非水モ部立ニ合し

夜分　非夜モ部立ニ合し

居所　二句ニテ免スアリ　国名　所名
部立ニ出ス

生類　虫ニ虫　鳥ニ鳥　獣ニ獣　同生類三句
とりても二句　三句ハ許されす

植物　木ト木　草ト草　同じ植物三句去
木ト草ト竹トハ何も二句

不高不低植物　木ニモ草ニモ竹ニモ二句去
二句隔

藤　萩　茶　藪　樫　荊　蔦

萸　蘭　萄　牡丹　山吹　撫子　ささき

卯花　卯木　うつき　木瓜の類之

○字去之部　付句より三句

㋑色　色の字ニ色の字三句去　今　入
余字ハ訓音ニテ二句

出(ハ)花早晴呆張(ホ)復
(ヘ)急蓬(ト)時所迄問苦
盈ル止ル色外元解多(チ)路
近(ヲ)昼追喜思小落押
打(ワ)我分忘返別佗
(カ)川風替色掛方薫似
(ヨ)吉夜(タ)立為経(ソ)袖
外真語(ツ)悲恙付秋諸
次(ネ)音(ナ)中鳴ル鳴ヲ立波
並滋籾双(ム)虫(ウ)肉上ヘ
憂落折浦(ノ)野上ル光ル淋

(リ)呉雲夏来(ヤ)山止尚ル
橋ヲ(マ)待又易廻迄(フ)根ル
吹添(コ)心此壱木小込
予(ア)有明浅江合于冬
解當(サ)里先小指文更
(キ)木際安功消来(ユ)行
(ミ)石水身見隠(シ)竹紛
家(ヒ)日人引(モ)本拘招
(ス)末佳捨之湖

○五句去之部

同季 春ト春 秋ト秋 三句 夏与夏与冬ト嫌

夏ト夏 冬ト冬 三句去ト云リ 又二句去ト云

但發句脇の時ハ是非季を続べし

夏冬の發句の時のみ之

月ト月 衣ト衣 竹ト竹 田ト田 私ト私

菱ト菱 泪ト泪 松ト松 桐ト桐 枕ト枕

此分打越でても五句 ○右の外五句去

いろは字を出したるハ打越でても八三句

みて先を越にテの五句去七句去ル留去

打去百句ニ一二三四八の物ハ字は数ニ去ル

一器財 器物ニ付ても打越ても不くるし

くるしてて不くるし

○武具ニ武具 家道具ニ 猪鍋ニ猪鍋

○硯ニ机 文庫ホ 右同じ二句去

○武具ニ琴 筆 琴盤 包丁

右様かりて八付ても打越ても不くるし

一支揮ニ支揮付ても打越ても不くるしからず

○顔ニ首 目 鼻 口 耳 額ホ

右同断打越を嫌ふ

○顔ニ手 足 爪 指 腹 背ホ

右はかりて八付ても打越ても不くるし

一名所ニ名所附ケ申し 同国同所ハ未ニ

見知る所と付ても国を隔て付べし

○須ナ明石ニ 氷浮 松島

○唐土ニ天竺 伊勢 陸奥

右体を唐にして不付

○但 富士山ハ何国の名所も付べし

花之部

花四ツ折三ツ一ツて花の字ハ三句去

神花 待花 花盛 花の本

花見 花の香 花蘭 花の庭

花鳥 花車 花埔 花の袁

花軍　花笠　花房　花の京
花の雲　花筏　花人　花の浪
花靱　花楯　花生ケ　花の[illegible]
花[illegible]　花の山　花の宴　花の[illegible]
花の[illegible]　非[illegible]　花の[illegible]非[illegible]
花の[illegible]と[illegible]ト[illegible]香ト[illegible]て[illegible]
花の[illegible]　花の[illegible]　花の[illegible]　ちる花
花[illegible]び　花の[illegible]　花の[illegible]　花の[illegible]
花の宿　花の儀　花の[illegible]　花の[illegible]
花の友　花の友　花の[illegible]　花[illegible]花
花[illegible]　花の[illegible]　[illegible]しれ[illegible]
花[illegible]　花[illegible]　花の時ハ非[illegible]
年の花　花の[illegible]　[illegible]是正花

花[illegible]
正花の[illegible]の[illegible]と[illegible]
[illegible]御傘ニ[illegible]　正[illegible]之

[illegible]びの正花
花の[illegible]　花[illegible]中花　花[illegible]　[illegible]之
花[illegible]　花[illegible]　花[illegible]　花衣　[illegible]
[illegible]花　花[illegible]　花の[illegible]　花の[illegible]
花の[illegible]　花の袖　花の枝　花の姿
[illegible]の花　[illegible]の花　[illegible]の花　花[illegible]
花[illegible]二[illegible]の[illegible]又[illegible]の花[illegible]
花[illegible]　[illegible]の[illegible]　[illegible]の花
[illegible]　[illegible]二句の花と云
右皆[illegible]トハ正花ニ[illegible]ハ之
[illegible]の[illegible]ニ袖の香[illegible]　[illegible]の[illegible]ニ袖の香[illegible]
[illegible]の[illegible]ニ[illegible]の[illegible]ル[illegible]
[illegible]の[illegible]ハ不[illegible]　月[illegible]ハ不[illegible]
花の[illegible]ハ風[illegible]花の[illegible]ハ[illegible]
花皿　[illegible]の時ハ非正花　[illegible]花[illegible]
花莚　花を[illegible]　[illegible]ト[illegible]二句

花の前なる所なれハ 植物ニ三句
花の付句ニ月を具し付べからず
たとへハ花ニ鹿ト付 又鹿ト付る事も悪し
花ニ薄萩付べからず 薄萩ニ也トハ付るなれ
女郎花ニ萩ハ付るも 萩ニ女郎花ハ不付
余ハ准じ知るべし
花ニ桜七句 但付合ハ格 桜ニ花ハ前て不付
花ニ名木詠ふ句 折を隔つべし
其外花木詠ふ句同前 余准じ
花ニ月を詠ふ句 百句ニ一ツ
正花 発句 脇 第三を去べし
四句目より神祇の内を去べけれ
花の常座 花ニ宗を去べけれ
月ハ自然と百句ニ一ケ所ニ詠も
子わり口伝と定むべし

他の季の花
○夏の正花ハ 餅花 若葉の花
郭と云詠ひける句
○秋の正花ハ 花火 踊の花
○冬の正花ハ 帰り花 二度ひ花と云 餅花
花見袋 右の外句により承るべし
○雑の正花 花嫁 花落 花聟ニ
詠ひける句 余ハ句体によるべし

◇非正花分

花のかざし 折名標帽子之事の内の條文 出事也
花田の帯 同断 はしか 赤き帽子
花鰹 桃の花 書の花 流の花
花壇 花十手 湯の花 火の花
こぼし火の花 條合の花 文蓮之
茶の花 揚 香之 花紙ハ 奥紙之
仮ナリ

もゝ皮ハもゝの異皮之
花子の相云 花町親王 花薗の院
花井才三良 花吉山 花川戸
花氏 苗字 人名 官名 町名
木皆百花ニあらん
花の王ハ牡丹 花の富貴 牡丹 花の兄 梅
花の君子 蓮 花の中人 菫 花の隠逸 菊
花の宰相 芍薬 すゝけむ夕良 赤楊むそ
花むれ梅むも海棠 花かゝし荒 六つのむ 香
三つの花 君 四季かきの花 紫陽花 花かつ [illegible] 異名
中ノ治のむ蘭 中治の名有秋草の花ろの之
花散里 源氏の句源氏ハ橘之
花ちる里の香をとかりしを時鳥 源氏
[illegible]花ちる里の里ニ志る[illegible]ハ西むなそそふ
実ナ花之 一本也て同時よ花実ね
耐しるハ橘よりて候
[illegible]ハ実[illegible]ハ[illegible]
枝よ[illegible] 源兄云

月の部

月 秋之七ツ西ニ三ツ色定テ出ス 但名残の裏ニハ月なし 独吟ニハ自然ニするも口伝 初表の月ハ立ぞん 独吟ニハ自然ニ口伝
月ト月 五句去 月の字三句去之
月次の月ニ三句 春の時ハ二句去之
○月次トハ 年月 卯月 冬月 如之
月ニ日ニ星ニ雲ニ 越を嫌ふ
月ニ添生きらき 嫌也 木不嫌
月次の月ニハ添生きらき嫌也ホ二句
又月毎ハいつもの月にても不嫌
月代口み 親 三句去之
月ニ雅の字 語ふ句 打を傳ゆへし
恵 神 天 名有 語ふ句も同シ
月ニ嫁捨 更科トハ付べからん 更科ニ

おもしろき月ハ付てよしとなん
月に月を付るも見ゆれ　たとへハ月に寄ト
付文寄ト付るもよろしとなん
春の月一巻の三ヶ月一巻の内に一
表の季の月一句上四折まで　夏冬嫌し
○但他の季を兄弟とする時を一句え
秋の月そろりみるくもよし
月次の月　心の月　絹の月　月筝
無如の月　寺号　山号　付字にけし
新とう光とう後へハ白の月に成り秋
帯ゆ之あらいなくてハ非月たとへハ
深生新　十月新　絹の月並木ハ月
星月夜ハ新光を後にても非月星の
光りといふ之　名所の時ハ非夜

● 月の名

名月　十五夜　三五夜　名高月　雨月

新月　月の弓　月の釼　木三夜　宵月
宵新　後の月　月の秋　木十夜　既望（イザヨイ）
宵闇　今宵の月　幾夜の月　有明　玉兎
嫦娥新　一鏡乃　一輪　欠ゆの月
破鏡新　月の出汐　桂の新　十日余中
曇居月　雨ん月　月の光　今宵の月
待宵月 十四日　立待月 十七日　居待月 十八日
伏待月 十九日　宗ハ略之
月の雪 秋之　他白斯によるへし
雨ん月 雲かゝり　昼より出る夜ハ雨ん月を見ぬ但夜より昼ハ雨ん白るハ非夜一句にかゝるへし
月の氷り 秋　月の氷ル冬　月凍ル冬
月虎　月まゆり　植新　孟光　皆秋
月明　景明記　明色　有明の入
脇ハ皆非夜ぞ之
月よこの袴　月よこの文
月詩　支新　月を釣　非夜

夏の夜の名月ニ比之夏之非体
いさよふ月 非十六夜 いさよふ月之
〇月影 山の端よりいさよふ月と出んの比
能川しをるよまそ見さる

◯神祇之部

伊勢太神宮 日本国中所々大小神社
宮 社人 社壇 拝殿 鳥居 神午
社 瑞垣 寝殿 末社 鰹木 千木
祠 神楽 神馬 絵馬 君祇 狛犬
榊 榊葉 三寸 洗米 散米 湯立
贄 御供 祭礼 神慮 神託 託宣
燎 氏神 禰宜 長官 御師 物忌
祓 祭主 社家 禰宜 神主 神子
巫 宮寺 夏越 夏祓
大嘗会 新嘗会 放生会 穂屋作
競ノ祭 流鏑馬(ヤブサメ) 木綿襷(ユウタスキ) 小忌衣

御手洗水 よろつの神 神わざし
斎夜(イミヤ) 祭の前夜之俗ニヨミヤト云 直会(ナヲラヒ) 祭の後三日会合メ斎を解る之
御幣 紙を幣の如くきるゆへ之 大玉串 榊ヲ木ニテ作り木綿を付ル之
軾 神前ノ円座なり 神示 さいまつくら
幣 おそろい ぬさとも 濵床 神前ニ設る
上巳振川上 みそぎ 膳ト云 神供之
おそろさし 丹波国与謝郡生野井原 吉備家へ奈済スル事之
右これ禁裏数多あるゆへ略く

◯非神祇之部

得方 年徳 男山 放生川 若宮
精進 おびを 太て 新田姫 佐保姫
獅子舞 綿付る
此外准して知るへし

○釈教之部
諸仏の名　諸菩薩の名　仏祖之名
諸僧官名　諸仏経の名　法僧法衣
法宗　仏具　法名山号院号　六道輪廻
持戒　破戒　勤行　夏行　腕香　回向
常香　三ノ車　火宅　彼岸　命日　忌日
位牌　喪去　此外准して知るへし

○非釈教之部
鐘　師兄　印袋　書記　碩学
医の官ノ釈名○在家の官の釈名
諸職人官の釈名○法印　法眼
法橋　検校　勾当ホ之
煩悩　坊主落ホ　意ニ於テハ尺ニあらす
余准して知るへし

○無常之部　哀傷　俗家ニテ執行フ大変ノ事之
無辺涯　帆し涯　三途川　灰寄
空さりし　魂祭ひ　三ツ瀬川　死人
野辺送　白骨　冥途　黄泉
髑髏　人魂　中陰　周忌　忌中　追悼
追善　腹切　幽冥　棺　龕

○述懐　懐旧之部
老　白髪　三ぬるむ　眉の霜　憂き
貧　浪人　おちぶれて　恥を費　寡
借　絶子　昔のよしみ　不仕合　苦
病　乞食　世を捨る身　此外准して知るへし

○非述懐之部
愚痴　法然　山樵　尉　姥　瞽女
狗の嘘　炭竈の嘘　筆の命　余略之

○戀之部

戀 独寐 文 中言 床入 後朝
悦 二人 縁 待恋 新枕 寐乱髪
君 身 匂 契 尻目 松床 そひ臥
靡 二心 妬 形見 記念 眉の墨
唄 二枕 傾 柳腰 虫の声 垣間見
襟 閨 恨 後朝 枕絃 立姿之
丈 新面 咒 湯女 姿見 かゝ衆
妻 振袖 色 枕香 東道 常陸帯
妻 眼诺 夫 九額 古暦 十寸鏡
寡 独寝 初物 紅粉 白粉
魘 水鏡 悋気 妻 初白 風流士
いも おもひ 枕くらべ 丈夫 恋子
女房 目元の塩 おもひ 撫 振ん
せな 逢ちかひ 思ひさし 密夫 入聟
内儀 浮世狂ひ 寺小姓 お妾 舞子
手活花 天女の名 丈夫妹脊の中
心中立 流人 狂ひ 身独と思ひ
揚屋の一夜作 遊女出家の詞
口説より恋 傾城町の名所
右之外 数多かり略之

○非恋之部

髪 黒髪 縁 宿執 天乙女 常
鏡 真澄鏡 伽羅 三線 独の女 蕙
歌 中居 半婢 下女 学の文 涓
泣 下女 瞽女 後家 浮世 描
文 添 逆浪 奥様 乳母 乙とし
様の文 孫の愛 名示の女 早乙女
日月 星 紅葉 新
右ハ恋ならねども 句によるべし

◎人倫之部
祖父　父　兄　姉　我　ちち子　姫
祖母　母　弟　妹　妻　子　孫　娘
伯父　甥　舅　夫　親　女房　老
伯母　姪　姑　聟　独　従弟
聖賢の名　△僧法師の名
実名　俗名　△傾城白拍子の名
此外准してしるへし

◎非人倫之部
帝　皇女　本院　新院　仙洞　太子
宮　親王　門跡　大君　仙人　人間
一門　凡夫　眷属　大勢　諸兵　衆生
農業　外科　本道　針医　老若　入道
俗　百姓　旦那　不仁　唖　聾　盲

官名　苗字。歌祖師の名。坊僧の官名
師　医師　仏師　法師　絵師　相師　など　△者　医者　儒者　仏者　など
少し越名を書い喚ぶが皆非人倫之
名に分けて出すべきを略く

◎居所之部
家　屋　宿　菴　書院　廊下
寮　囲　亭　楼　小屋　搏風　床
椽　炉　壁　窓　鴨居　敷居　庇
礎　埒　棟　甍　天井　破風　軒
隣　国　園　梁　玄関　気流ハ去るへし

◎居不用　本居不二并越邸之部
村　里　築山　泉水　路次
邑　戸　外面　井戸　井筒　肖戸
簾　絹篭　翠簾　暖簾　欄干　土蔵
町　但居流ハ非居不　庭　居不能ハらがに

右居不許用数くらへして嫌く

柱 古ハ二非居不といへとも居不ニ用へし 杖柱 橋柱ホハ居ニあらす

◇非居不之詞

内裡をいふ 皇居 御所 御殿ホの名

神社をいふ 宮 社頭 玉垣 穂屋作ホ

仏閣をいふ 堂 院 伽藍 方丈ホ

急ハ 千里 市場 軍場 鞠場ホ

◇山類之詞

峯 嶽 岨 洞 谷 瀧 峠 麓

坂 高根 尾上 九折 山姥 山姫

山ニ有関 不破 逢坂 足柄 白川 かうさき 岩橋 くめしの橋

◇山類ニ非嫌ふ詞

岡 嶋 磯 泊 瀬 嶺 在名の関

◇非山類之詞

吉野 嶋国 瀧川 仙人 淡路嶋

三嶋 越路 泊瀬 仙人 瀧津川

氷室 山鳩 山鳥 山桜 瀧津瀬

山桃 山梨 龍田川 蓬が杣 余准之

◇衣服之詞

裳 小袖 衣裳 錦織 袷 白無垢

被（カツキ） 下衣 濡衣 紙子 袖 黄無垢

衣 帷子 単物 浴衣 袿 衣更

襦 衣紋 袖口 布子

◇非衣服之詞

襴（カリハマ） 袞龍（コンリヤウ） 素襖（スアウ） 精衣 褶（ナカハカマ） 宿直衣（トノイモノ）

袍 直垂 裲襠（ウチカケ） 奴袴（サシヌキ） 甲 三尺手拭

帯 緋袴 縷袴 白張 綴 長絹
衣 袈裟 浄衣 衲衣 襠 衣具
褌 十徳 上下 肩衣 蓑 頭巾
笠 紙衣 帽子 襟巻 [illegible]
足袋 脚絆 夜衣 裏服 素襖 葬衣
袍 葬衣。右官服 祭衣 僧衣 喪服
礼服ハ皆非衣部なり余准之

◎水辺之部

海 浦 浜 川 江 池 沢 堤 流木
湊 淀 渚 沖 礒 汀 湫 洲 浮萍
関 湾 津 浪 泡 渕 汐 沼 杜若
瀬 滝 橋 筏 櫂 筧 流 溝 井戸
海士 漁火 蛙 鵜 水屑 浜荻
須磨 明石 松島 海草 貝類
菖蒲 魚名 釣具 、舟の諸名々
名所名 漁猟の名 余准之

◆非水辺之部

天の浮橋 夏の浮橋 白川の関
月の出汐 室の八島 難波寺
なこその関 野の玉水 かさゝぎの橋
布さらし 志賀の松 ふる川
三川 七川 逢の海 蓮の上露
硯の海 天の海 岩根 氷柱 笹屋
干魚 干貝 苗代 田植 余准之

◎夜分之部

月 星 曙 宵 暁 蝙蝠 蚊帳
衾 枕 灯 炬 鼠 暁 明星
月待 七夕 銀河 横雲 東雲
稲妻 [illegible] 夜更 明方 鵜舟
砧 鵆 鵜川 晩鐘 篝

挑灯 挑灯 燭灯 紙燭 燭臺
花火 蠟燭 短檠 手燭 庭燎
仮寐 居眠 夜盗 灯明 送り火
源文 化物 幽霊 夜発 辻君
三日月入 星を唱 衣く 蚊屋
捨七灯焼火 住吉の市 宝の市 氏
追儺 鬼やらいとも 除夜 六晦日
草の枕

◇ 非季分詞

鐘 油 電(イナビカリ) 燈 虫の声 芦火
三ケ月出 今日の月 朔日月
宵の月 昔の月 夕月夜
明がれ 月の入 残る月
常燈 夜更 夜幼 望月夜 名所ハ まくらなとも
右くの外ハ ふたつに よるへきこと

○四季之詞

春

大皞帝 句芒 蒼天
東君 青陽 初陽
正月 大簇 律 立春 春 雨水 中
孟春 甚正 陬月 端月
むつ月 いそひ月 太郎月 初元月
元日 元朔 元三 年の始 月の始 日の始 元旦 正旦
鶏旦 東方朔が占に 元正月 一日白鶏 二日白狗 三日白猪 四日白羊 五日白牛 六日白馬 七日白人
改旦 新春 年頭 年始 淑気
新年 改新 甫年 改年 賀節
三朝 三始 三元 履端 新正
千代の春 君が春 御代の春 花の春
今年の春 宿の春 四方の春 今春
けさの春 日の始 よひの年 去年
若き年 年の花 初若菜 元日草
あら玉の年 年立帰る 年のはじめ

淑氷の解初　こほりとくる　去年今年
初空　初日影　初鳥　初鶏　初暦
鏡開　氷の様　腹赤奏　国栖笛　和州吉野
の土民年始ニ禁庭ニ参テ奏ス笛
若水　井花水　包ミ井　井ぐらき
年玉　年男　年徳　元方　門の松棚
座竈　幸木　蓬萊盆子　大ふく
屠蘇　白散　度嶂散　ちやうり　元日之
門松　立松　い孫つむ　宝禄　以上九
福藁　福縄　掛鯛　太箸　歯固
新黄　芋頭　はらこもり貝　雑煮祝ふ　大こん　ふと之ハ元日之
かくし餅　ところの精　かんを祝ふ
蓬萊祝ふ　ゆるや　柿子　穂俵　揺　ところ
搗栗　こんぶ　蓬をかざりとなすハ元日
飾とすれハ元日　喰積　山草　歯朶
うら白　楪　親子草　穂俵
大飾　松竹　炭　えび　縄　しめ飾
以上飾とすれハ元日之

初青　粒の子　御鏡の餅　押紙
俵子　あをのり　開き牛蒡　結節
夕節　御賀文　葩お大黄　鶴むしろ　涼
初春二文くの詩を封じテ賀ス実ハ年中
古の吉凶をとふるひろさへのもれく
若恵比須　大黒舞　星弘
子おち万歳　一万歳楽　山万歳　鳥追
恵ひすかへ　水祝ひ　水わびせ　宝引
綴ふり　玉打　毬打　ぶりく　こご板
こぎ板　やりこど　こまはく　てまり
くま矢　弓始　謡初　乗る始
きぞ始　湯殿始　書初　去ぞ始
筆始　試毫　試筆　諷初　稽初
弾初　吹初〇以上歳旦之
節振舞　節小袖　年男　御屠蘇
松竹　若餅　店卸　帳書き　帳とぢ
葛宛　初音　責初　寄初　松の内

しめの内　まつり　以上歳旦ニ次
舟玉祭 二日　初寅 くらま　番卸(コロカヒ) 十一日
初卯 住吉　卯杖 上卯　子の日 上子
小松引 上子　稜よう 四日　續祝 同
六日年越　人日 七日　若菜　忘ぐ揚
をうぎ摘　破菜摘　其面爲　す
白馬節会(アヲムマノセチエ)［七日ノ夜禁庭ヘ白き馬を牽出す白ハ陽ノ色也青ハ春ノ色ニ合祈を祝ん仍白をあをましと唱フ］
七種［芹(セリ)　薺(ナヅナ)　鼠麹草(ゴギヤウ)　俗母子草　繁縷(ハコベラ)　俗大根　佛座(ホトケノザ)　俗田平子　菘(スヾナ)　俗水菜　蘿蔔(スヾシロ)　俗大根 同］
ゐ鏡り 九日　十日戎　徐石 十一日夕 十三日迄
かん官ノ除目之　ゐ連歌 十一日　武者饒宗 十一日 廿日　帳祝 同
常陸帯 十一日　土竜打(ウゴロモチウチ) 十四日　綱引 十四日 十五日
左義長 十五日　爆竹(トンド) 同　吉書上 同　小豆粥を祝 同
ゐ薪 十五日　粥木 同　うゐ杖 同　うゐ祝 同
粥占 十五日　忌紀平居　三保米 十五日　上元 十五日
踏歌(アラレハシリ) 男タウカ十四日 女タウカ十六日　かさしの踏歌　やぶへ 十六日

六修和別 同上　尼神宗 八日 十九日　吉田清祓 十九日
流忌 十五日より 廿五日迄 浄土宗　骨正月 廿日　初天神 廿五日
初不動 廿八日　○　残氷　残雪　凝(イテ)る
凍解　餘寒　去年　今年
下萌(シタモエ)　梅　若緑　松の花　若子(タケ)の若えぐ
木の芽(メ)　菫(スミレ)　若草　土筆　薢(トコロ)
萍(シトウ) 芦の角　萌る芽　藕(ハス)を掘　也太根
掘入　思さすし　畑色　畑打　種油
山笑ひ　仰り山　鶯　残さよ　仰り揚　ま
鶯の初声をきゝし色々鳴き　とくとうきる声
猫書る　猫さかる　鶯さかる　白魚
飯蛸　わさう　○　以下三春　佐保姫
水温(ぬるみ)　遅き日　日和ス　水和ス　風和ス
陽炎(カゲロフ)　陽朱ノ登　東風　霞　朧月
雪る(イトユウ)　陽炎　遊糸(イトアソフ)　長閑　蘖(ウラゝカ)
ぬくい　ぬるむ　暖　雉　水鳥嶋

鳥囀　百千鳥　鶯　囀　雛鳥
雲雀　鶺鴒　鱵　鰆　蜆　鮒膾
青饅　蛤　干鱈　目指白魚　海雲
鹿尾菜　海苔　若和布　柳　桂
蒲公英の花の句　芹　苣　川ちさ
楊枝うるふ　青柳うるふ　青からし
ころも　よめな　菠薐　防風　独活
山葵　黒芋　くわゐ　新葉摘
青すゝき　青すゝぬ

二月　夾鐘　律　驚蟄　節　春分　中
仲春　陽中　如月　令月
きさらぎ　梅見月　小草生月　初花月
釈奠　上ノ丁日　又八月　二月堂の行　一日ヨリ十五日迄
春日祭　上申　初午　稲荷　水分祭　初午
行基忌　二日　こや　二日灸　薪能　七日より十四日迄　芝能　同
水取　十二日　二月堂　遠忌　九日より十五日迄　涅槃会　十五日

涅槃像　二月の別　きさらぎの別
常楽会　十五日　真桜　柱炬火　十五日　鯰をおくる　同
積塔　十六日　琵琶法師　後光孝天皇ノ皇女ノ忌ヲ此時ヨリ座頭ノ官始ル　比良ノ構
祇園堂八講　同日　貝寄　十九日　社日　中ニ近キ戊ノ日ヲ
治部卿涅槃　中ニ近キ戊ノ日　彼岸　中ヨリ三日メ　時正　同　踊念仏　同
聖霊会　廿二日　天王寺　流る祭　九日　小町忌　廿五日
広瀬祭　廿五日　〇　苗代　同　菜莢　水口祭
種井　種浸　種蒔　種かゝる　苧麻蒔
蕨　ぜんまい　蒲公　杉菜　枸杞
虎杖　さいたづま　韮　蒜
胡葱　野蒜　糸葱摘　菫　花ハ夏　芹つむ
菜大根の花　かつら草　草の若葉
田畑打　山を焼　すぐろのすゝき
荻の焼原　芦の角　茅芽　蓬摘
蕗の薹　小松ひき　銀杏の花　紅梅
八重梅　桑採　茶採　蜷採　一番採

初花　花を待　接穂　接木　燕
燕ノ巣　かへる　かへる雁　え乙鳥去
帰雁　川鵆　川鴨　松毟鳥　孕雀
雀子　雉子　初雷　虫出之　蜘蛛
地虫の穴を出る　蝶　虻　蜂　同巣　蛙
鳥の巣　同古巣　孕鹿　鹿の角落
田螺　寄居虫　馬刀　ところてん
鶵の子　蒸鰈　風箏　出替り

三月

姑洗律　清明三　穀雨中
季春　竹秋　禊月　桃月
やよひ　桜月　花見月　夢見月
経供養　天王寺二日　宵会　清明お日　杏粥の粥　同
上巳三日　元巳　重三　上除　桃の酒
桃節供　柳かつら　艾の餅　草の餅
蓬餅　母子餅　巳の日の祓　源氏須磨の時あそびなど
鶏合　雛祭　ひな棚　ひな飾　雛子

立雛　曲水　流盃　巴字盞　桃觴花入
汐干　住吉加賀上巳　蛤かへる　石山祭三日
高雄花会十日　やすらひ花　同上
嵯峨釈迦十四日　壬生念仏十四日より廿四日まで　壬生祭
梅宮祭十七日　さが大念仏十五日　人丸祭十八日
浅草祭十八日三社　東寺念仏中比　稲荷祭中午
南祭中午　御身拭十九日　新供十二日
仁和寺之旅の女房廿一日
○鞦韆ふらここ共　小町川　まくら踊
柳の絮　花より末に入て秋の山路にあり　花ぐもり　花見
菜種の花　桃の花　はしらの花　梨
梨の花　八重桜の花　菜桜　菜柳
海棠　桃花の花　枳殻の花　李の花
杏子の花　林檎の花　榲桲の花
梨の花　梅の花　いちごの花　山葡萄
楊梅の花　紫辟木の花　木瓜の花

木蓮花　辛夷(コブシ)　長春　沈丁花
大桜　庵桜　躑躅　令法(ハタツモリ)(レウブ)
薇　通草(アケビ)のはな　小米花　小手毬(コテマリ)　欵冬(ヤマブキ)
連翹　榅桲のはな　かうらい菊　東菊
仙台萩　春菊　木瓜(ボク)のはな　九輪草
七重花　金鳳花　丁子草　忘れ草
けまん　金銭花　母子草(ハハコ)　弓莚
桜草　菫(スミレ)　眉作りの花　五形(ゲハナ)　茅花(ツハナ)
菜種まく　ちりく　若布刈　苜蓿
茶摘　きて茶　桜うぐひ　桜魚　桜網
桜貝　柳鮠(ハエ)　柳の魚　小鮎　上り鮎
蚕　新桑摘　睦まじ　やすみ時　春の蚕
郭公の巣　鶯の巣　あひる　雀の巣
呼子鳥　雲に入る　引鶴　山吹衣
棗山吹　桜襲　行く春　八十八夜
忘れ霜　炉火塞ぐ　三月尽

春に惜しむ　春を忘るる　暮の春
春の限り　春の別　春深き　春暮るく
行春　春の名残　春の湊　春の果て
春を惜む　春よりの　夏近き
夏を儀　夏を約

夏

炎帝　帝　祝融　神
昊天　朱明　蒸砂
四月　仲呂　律　立夏　節　小満　中
孟夏　陰月　余月　乾月
卯月　うのはな月　花残月　こことなり月
更衣　白重　卯の花衣　袷　綿貫
絹より　ゑらぶ　此時より裏ニテハ四季共ニ袷　ぞんぶんに四季ニハウ
青簾　下節　続十の祭　一日
住吉卯祭　上卯　大津祭　上申　山王の使　三日
水屋の神　二日より　五日より　灌仏　八日　浴仏　同

灌仏会 日　仏生会 日　仏の産湯 日
五香水 日　夏入 日　花摘 日　解斎の粥入 日
地主祭 九日　臨水　[illegible]祭 十四日　土塔会 十五日 天王まつり
御進子 十六日 三井寺　日光祭 十七日　和歌祭 十七日
山王祭 中申　日吉祭 日　国祭 中酉
葵祭 中酉 かも　かけかつら　葵かつら　流鏑馬 日
○ 竹祭　杵ね　杵さし　大矢数
餅花　若葉のむ　若葉　木の下闇
新樹　よこしぐれ　若楓　楓の実
卯の花　楊梅のむ　厚朴の花　桐の花
楝の花　橘　柑類の花　山吉の花
楼桐の花　もちりの花　蔵の花
岩梨　岩藤　白丁花　要の花
牡丹　芍薬　杜若　芥子　筆
蘇枋　天蓼　苺の花　蔓　扇萩
茅蔓　美人草　またま　かくらや

ぎやう　一八　蕙　ぼうたん　風かほる
潮草　きりしくのむ　鴨足草　蔵の花
石斛のむ　茶摘草　夏緑のむ　ろか草
竹の子　若竹　芭蕉　たけのこ
菖の葉　筍の皮葉　綿さき　麦わら笛
麦の秋風　麦刈　ものしくしる
葭原雀 日上　郭公　えこる　花橘
蚕のまゆ　枝の蛙　蛸の子　かさめの子
繭紬　初鰹　生節　鹿の袋角
杜若のまゆり　○ 以下三夏　扇　団　末市
さらし　まね　単羽織　汗　汗拭
晩涼　昨宵　短夜　編笠
日傘　新茶　古茶　麦粉　新麦
切麦　冷汁　麦湯　水鏡
水飯　干飯　干鱧　蟹鱠　洗鱠
鳥賊　鮨　鮓　[illegible]　奥の渠

孑孒 蛩 蜘蛛 蚊屋 蠅 蠅虎
蛭 蚯蚓 蚰蜒 蝸牛 蚕
蝙蝠 きと鵜 通し鴨 だん
まこ鳴 夜啼鳥 麦鶉り 麦げい
麦刈 麦出き 麦踏 麦むし 一麦
青山椒 刈葱 すべり莧 若竹
落葉 蓼 藜 根芋 蕗のこる
蕗 滝松 ふのり干
五月 蕤賓 律 芒種 節 夏至 中
仲夏 茂林 皐月 鶉月
さ月 さつき月 橘月 月見ぬ月
賀茂足揃 一日 月競る 生玉流鏑る 五日
端午 五日 端五 重五 艾虎 蒲人
粽 飾り兜 割まきの雪 幟飾
あやめ川 月菖 ほろし 月粟
月机 まきぶ滝衣 月刀 月湯

氷桶 葺ふく 棟ふく 棟の佩
薬玉 續命縷 五月の玉 宵鏡
菖兀 菖蒲刈 競馬 百草を闘る
菖川 ひるりの日 競渡 水る
下比井 菖蒲湯 菖蒲浴 菖蒲湯
弁 帷日 十三日 住吉御田 六月八日 御田扇 山田 六八日
かざりこし 丹後の国与謝郡 吉作ノ宮へ京ヨリスル 虎が雨 六八日
祇園会 非 御祓 夏至 麦生 夏至分 十一日目 三候
○ 帷子 ゆかた かたびら 色々
麻 今年竹 若竹 苗 早苗
田植 早乙女 田歌 棟む 梅雨ノむ
柿のむ 石榴のむ 栗のむ 合歓のむ
天南星 山梔子のむ さうとく のえむ
五月闇 南天のむ 未央柳 忍冬
金銀花 撫子 常夏 石竹 百合
王不留行 紫陽草 四ひらの花 麦藁

蚊葉 もちはげのむ 酢漿草のむ(カタバミ スイモノグサ)
萱草のむ(ワスレグサ) 鉄線むむ 紅蜀葵 苺のむ
忍ぶ草 石蕗 真菰刈(マコモ) むくげ
菖蒲(アヤメ ニヤウブ) むらさき 藻の花 藻刈
藻の花 萍のむ(ウキクサ) 菱の花 川骨(カウホネ)
粟 稗 稗 胡麻と蒔 豌豆(エンドウ) 豆とり
青梅 熟梅 梅を漬る 梅を干す
梅むき 小梅の実 杏子 李 枇杷
楊梅(ヤマモモ) 生枇杷(ビハ) 桑の実 早松茸
あをうり 越瓜(シロウリ) 浅瓜 胡瓜 めしうり
茄子 新茄子(ニンキナスビ) 小鯵 鰹子 水鶏(コウスズシ)
蛆(ウジ) 蜘蛛の衣ぬぐ 蝉 初蝉 水鶏(クイナ)
乙鳥の巣 浮巣 鴨の子 鳥の子
ほねぬける 黒鴨(ハスナガガモ) 流るる毛とかふ 日焼
蚊の子々 蚊の嘴(カコ) 蛍狩(ホタルガリ) 蚊燻
照射(トモシ) 火串 鹿を射るとて山に火をともしたるを云 火串さしともすべく持たるもの

○ともしかかりと書とかりうどを…近くて鹿の方とこなし
五月闇 つゆ 五月人 白雨
六月 林鐘 律 小暑 大暑 中 梅の雨 九月雨
季夏 瓜期 且月 避月
みな月 風待月 鳴神月 常夏月
氷餅を祝ふ 一日 氷室 日 勝鬘を祭る 一日
富士詣 一日より 晦日まで 夕垢離 六月会 四日 天台宗
祇園会 七日より 十四日まで 八社ヨリ四条京極ノ御旅所と神輿を出す 日 山鉾 日
七日 長刀鉾 函谷鉾 月鉾 鶏鉾 白楽天鉾 放下鉾 舟鉾 岩戸山 芦刈鉾 … 山 孟宗山 郭巨山 大子山 山伏山 花盗人山 天神山 笠鉾山 …山 琴破山
十四日 橋弁慶山 鯉山 …山 役行者山 北観山 …山 鈴鹿山 …山
京四条 川原涼 七日より 十八日まで 嵐鍬祭 十五日 竹生島祭 十四日
江戸山王祭 十五日 嘉定喰 嵯峨天皇潜龍ノ時ヨリ 嘉定銭十六文ヲ以此日
有職拾 いなみふれ 十六日 夜涼 十七日 十九日 鞍馬竹伐 十八日

瀧浴 形代 撫物 川社 名越の祓 わぬこの拔 夕祓 御祓川 そうひ草 茅の輪
麻の葉流 麦秋 ○ 鴨涼し
露涼し 風かをる 青嵐 雲の峯
白雨 極暑 日盛 炎天 二伏
納涼 泉 泉水 清水
清水むすぶ 日除 日やく 日没
井戸さらへ 晒井 水あけ合 永極
川狩 鵜飼 水母 ひきり螢
孑孑雲雀 火串 火とり虫 毛虫 蠑
蟬 蟬の脱殻 空蟬 蝉の脱 蠅
竹の皮ぬぐ 百日紅 射干 ひあふき
きつさう草 蓮 水芙蓉 慈姑
赤芽 夕貌 旋花 瓢の花 凌霄花
風蘭 鳳の花 眼皮 磯なでしこ

たちばなの実 葛の花 楝の花 瓶をさゝぐ
御祓の花 蒲の穂 田草取 青田 萑刈
麦刈 藍刈 白麻刈 麻引 麻
桷麻 麦引の糸 かうむし 若荷の子
青番椒 青鬼灯 蒜の根 青さゝげ
瓜 若根 干瓜 姫瓜 瓜 葛葉
白瓜天 葉瓜 熟瓜 林檎 新干瓢
二瓢むく 京白漬仕廻 納豆仕廻 冷麦作
麦突 麦切茶 冷麦 麻地酒
洗ひ飯 水飯 引飯 水の粉 醴水
葛水 心太 江戸初鰹 六月十九日 綱とトスー停どへ
夜鰻売 沖膾 大暑の頃の奥あゆうしとといへ 沖づえトと庵料理濃へ
羊羹をせごし鱠 丹のとも料理とうくとえ
抱籠 竹婦人 竹奴 膝ろ 蓼子
麦こがし 藿乱 香薷散 土用干
虫干 虫拂 掛香 麦藁で

夏深き　夏の別　夏まけて　夏の限り
夏よ（？）は　夏を送る　夏くれて
夏を送　夏果る　秋を待　秋近き
秋となり

秋

少皥帝　蓐收神
昊天　白藏　金商
七月　夷則律　立秋節　處暑中
孟秋　桐秋　相月　蘭月
ふ月　ふミ月　女郎花月　親月
餞暑 一日　新に涼し　初て涼し　今朝の秋
今日の秋　初秋　立秋　来る秋　秋の初風
一葉 桐之　小町の湯の水 六日　日社極の祓礼 七日
諸子の能縁起 一日 十五日 さ　机洗ひ　硯洗ひ
星夕 七日　七夕　二星　星合　牛女
牽牛　織女　彦星　太和星　河鼓
と七夕　め七夕　星の契り　七夕つめ

[illegible]妻　薫姫　百子姫　糸織姫
朝顔姫　梶の葉姫　さゝがに姫　秋去姫
天の川　銀河　銀漢　銀浪　星河
かさゝぎの橋　鵲の橋　烏鵲橋　年の渡り
七箇の池 百ヶ池也　妻迎舟　妻こし舟
七夕の舟　乞巧奠　乞巧針　星祭
星の手向　歌の系　星の薫　秋さり衣
庭の立花　星のしれ　梶の葉　草の露
乾る井鞠　池の坊立花　本能寺七夕あそ
峯入 逆の峯ト云之本山ハ七月当山ハ八月之峯ト云ク順逆ハ山踏のタトノ之
文殊会 八日 あり　六斎参り 九日　迎ひ鐘 同
清水千日詣 十日　盆市　草の市売
高灯籠　盆 路　迎ひ火　しゝ盆
盆　聖霊祭　魂祭 同　棚 同
棚経　掛素麺　麻がら箸　荒菰 ミソハギ
水の実　盆供　枝豆　枝さけ　丸　茄子
ちそは　蓮の飯　あらの実

灯籠　切りこ　踊
ます撲　桃　おこし　祭ル供ドすれハ盆之
中元十五日　生身魂（イキミタマ）　蓮の飯　刺鯖
三井寺女猶十五日　麦むかし　施餓鬼
水灯籠　送り火　大文字の火 十六日
高雄火 同 鳥居　舟形の火 同 舟岩　妙法火 同 松ヶ崎
題目踊 松ヶ崎　灯籠踊 長谷　楽木流 乗井
鯖十杯 十六日　ほと入 十六日　伊勢ニテ大晦日として
さいれいとも　此岩の山如 十六日　鳶の樹 廿日
鬼山火 廿三日　地蔵祭 同　荷前使（ノサキ） 大ゝかた御庭物使
○　踊岩　ひやうう　扇たく　団捨る
撫子　門茶（カド）　花火　稲妻　焼米
田畑の虫送り　新麦（ヒコニ）　ぬる麦　あら麦
桐　楸（ヒサギ）　柞（ハハソ）　樋（ヒコ）　櫨（ハゼ）　楓　青楓
萩　葉萩　槿　桔梗　沢桔梗　女郎花
茶の花（オホトトキ）　男郎花（ヲトコヘシ）　仙翁花　紀の草
蘇芳　茶師草　刈萱　風仙花

蕣（ノウセンクワ）　旋覆花（カルマ）　野菊　やいとむし
曼珠沙花　常山の花（クサギ）　同虫　木槿（ムクゲ）
茗荷の花　うきくさの花　薏苡仁（ズズタマ）　蒲萄
紫葳（ノウゼンカツラ）　桃の実　木瓜の実（ボケ）　胡桃
胡麻　蓮の実の飛　あさかほ　夕顔の実
青瓢簞　西瓜（スイクワ）　わらび　棗　粟ノ穂
稲すずめ　稲番のむ　稲の花　早稲
二百十日　鳶の山別　鳶折　おし鳶
初鳥狩（コタカカリ）・初鳥狩（コ）　蝉　蜩（ヒグラシ）　蟋蟀（キリギリス）
蜻蛉（ヤンマ）　秋津虫（トンボウ）　○　三秋 以下　立田姫　千秋楽
律の調べ　秀　霧　きぬしむ　そよそよ
月の霜　雪氷　月の桂の有所　朧
照月（テル）　新月　弦月（ユミハリ）　月　推（ヲス）
桃の実　栃　荻　浜荻　藤　芭蕉
無文字　花垣　草花　葛　萬の花
土芳　思ふ草　艸の花　錦花

雁来紅(カマツカ) はげいとう 秀萱 すまひ草
太子菜 萩原 萩の戸 わらづき
新番椒(タウガラシ) 若たばこ 布瓜(ヘチマ) 南瓜(ボウブラ) 冬瓜(カモウリ)
薑(ハジカミ) 牛蒡引 芋 茎(ズイキ) 薯蕷(イモ) 零余子(ヌカゴ)
菓(コノミ) 棗 青梨 木梨 山梨 新米
おしね 稲舟 日刈 日干 日ほく
稲 田の色 田の庵 小田守 鳥おどし
鳴子 鳴竿(ナルサヲ) 添水(ソウヅ) 引板(ヒタ) くゝし
新綿 新渋 木さゝげ とくふく
蟲 蓑虫 諸虫の音 みゝず鳴
この虫の名 小鷹 鴫 鶴 百舌鳥(モズ)
鶉衣 鶉狩 鵯 寒蝉(セミ) 鰯(イワシ)
江鮒 鯊 鰍川 小鰯 裂膾(オキナマス)
紙やる(ウチキ) 施吹 お撲(ハヽキ)
八月 南呂 律 白露 芒 秋分 中
仲秋 竹春 壮月 桂月

え月 秋風月 月見月 木染月
八朔 たのもの祝ひ 田の実 鶺鴒(ツクリスヽメ)
鴈行祭 司百 十一日 待宵 十四日 小望月 日
名月 十五日 名ある月 日 まよひ月 日 月見 日
今日の月 日 芋名月 日 三五の夜 日 望月 日
良夜 日 放生会 十五日 かこ 八幡祭 十五日 石清水
高良 宇佐 筥崎 誉田 住吉 放生会 十五日 十六日 駒迎へ
菩薩祭 秋社 秋分近キ戊ノ日 ○ 初あらし
初汐 野分キ 吹し やゝ寒 夜寒(ハダ)
砧 ころもうつ 擣衣 衣打 猿寒キ
長夜 敗荷 名木の散ル 登山の色
牡丹の根分 初ゆふ 藤袴 ハジけよふ
木芙蓉 木犀花 桂の花 柿もどき
錦紅 榠樝 根芋(コヽツナキ) おしろいの花 花むら
鳥兜(トリカブト) 荊薑 紫菀(オニノシコグサ) 萩草 月草
花野 乙女の花 萩の花 尾花

龍膽 とうのむ 燭華の花
漆の花 藍のむ 蓼の実 日穂
蕎麦のむ 芦のむ 日穂 木賊刈
茜ほる 苦参引 たうやく引 菜摘
萱刈 新刈安 石榴 銀杏の実
茴香の実 荔支 通草 天瓜
穂ぬくべ 菱取る 木の子 くさびら 茸
毛見 中稲 落穂 稲束 日短
稲莚 穂掛 八束穂 粟稗引 [illegible]子
辛菜 薹 大根蒔 小菜 [illegible]
ろ引る 中ぬき大根 鷹 斑鳩 菱喰
燕帰る 稲負鳥 鵯渡る 小鳥渡る
色鳥 鶸 こうら 山雀 四十雀
五十雀 ひかき ましこ かわら かしら
ろり 目白 鴫 鶺鴒 まんさく
啄木鳥 菊いただき むくどり [illegible]

あとり ひろき 木兎 鶲 似苺子
江鮭 かじか 月鳴く 太刀魚 さび鮎
落鮎 いりやな 鯰 蛇穴に入る 新酒
あらばしり 中汲 とろろ 酴醾漉
九月 無射 律 寒露 霜降 中
季秋 紅樹 菊月 玄月
なか月 梢の秋 紅葉月 小田刈月
桂の宮のお撲 八日 舎利会 八日 泉涌寺
重陽 九日 高九 菊節供 栗節句
九日小袖 わてめ酒 菊酒 菊粥
菊のきせ綿 後の雛 御贏まり
茱萸袋 くこの佩 後の菊 十日
鞴祭 九日 貴布禰祭 九日 生玉祭 九日 大坂
琵琶湖祭 九日 四の宮祭 十日 足袋のえき祠 同
不破田の奏 七日 御香の宮祭 九日
下る祭 十日 例幣 十二日 御離の餞 十二日

宝の市 十三日 住吉　外の市 日　白川祭 十三日
後の名月 十三日　栗名月 日　豆の月見 日
二夜の月 日　後の月 日　月の名残 日
念仏会 十五日 天王寺　粟田口祭 日　神田祭 日 江戸
岩清水祭 十九日 泉山　太秦の牛祭 日　神明祭 日 俗生姜市云
渡会新嘗会　穴織祭 十七日　呉服祭 十八日
八幡放生会 十五日 造と俳　波利女祭 廿日　定家 廿二日
康谷祭 廿四日　逆髪祭 廿四日　天満流鏑 廿五日
住吉神送 晦日　野宮の別　桂川の九献
伊勢九遷宮 ○菓　瑞菓　三花かう
仙蓼　鵯上戸　南天の実　だもの実
西海子　菩提子　梨の実　榎の実
栃の実　を母菓の実　楝の実　椋の実
榠樝の実　杜仲の実　栗　榛　櫟
椎　団栗　新榧　新松毬　新松子
〆木　菱　ぎんなん　仏手柑　柑類

枇をもそ　胡桃　柿　烏柹　漆かく
色かへぬ松　紅葉　柾 楓 梅 桜 柊 棟 白膠木　漆葉 [illegible]
山粧ふ 秋山の錦　草の色錦　うら枯
枯草の花　枯葉ふも穂にも花（八秋之）
落ちる 芦のほさき　枯尾花　破芭蕉
豆小豆ぢんこうを刈　蕎麦刈　新そは
遅稲　晩田　ひつち田　おとし水　山霧
穭時雨　霧露簾　尾越の鴨　[illegible]
鯔簗　[illegible]簗　網代打　番錦
裏母　九月尽　秋ぞ　秋暮て
秋そ隠つる　秋よ行　秋より後
暮の秋　行秋　秋の果　秋の名残　秋の限り
秋を惜む　秋深キ　秋の湊　冬近キ　冬なぐ
冬を待

冬
顓頊帝　玄冥神
上天　元英　羽音
十月　應鐘律　立冬節　小雪中
孟冬　折木　陽月　良月
かみな月　小春　時雨月　初霜月
神送一日　神旅　神の留主　炉開き
亥猪(ヰノコ)亥日　同餅 豕ハ多子ヲ産ス仍子孫ノ栄ヲ祝ス　達磨忌五日
十夜六日より十五日迄　長福寺法花会六日　金比羅祭十日
[illegible]十日　御命講十三日日蓮宗　下元十五日
聖一忌十六日　恵比須講廿日　誓文拂同上
大社神々中去　神集同　神在同　神迎晦日
お取越三一向宗　○茶ノ口切　初霜
時雨　初時雨　初雪　初氷
初氷ほん　冬牡丹　大蕪(ツハ)の花　冬菜　茶の花
八手の花　寒菊(カンギク)花　帰り花　正花之但何れにしも花の字ある物は非正花なし

冬梅　枇杷の花　帰り花　名草の枯れ
草萩荻蘆蒼朮枯之　木枯(コガラシ)　笹の子鳴
○以下三冬　雪吹(フキ)　霜　雪　氷　霙(ミゾレ)　霰(アラレ)
炭　かくい　炭取り　助炭(ジョタン)　榾(ホタ)　炉　いろり
火燵(コタツ)　手炉(シュロ)　ほたあかり　懐炉　火桶
火鉢　埋火　湯婆(タンホ)　胼(ヒヽ)　皹(アカヾリ)　水洟
衾(フスマ)　蒲団(フトン)　頭巾　綿帽子　踏子　紙子
ほめき　冴(サユル)　冴月　寒き　大根
胡蘿蔔(ニンジン)　茎菜(クキナ)　茎漬　葱(ヒトモジ)　蕪(カブラ)　冬葱(子ブカ)　切干
干菜湯　室咲梅　水仙花　根深　枯芦
枯柳　木の葉　朽葉　枯野　くさしれ
冬籠　鷹　仁徳天皇の御宇庚午年鷹を献る皇此鷹を以て狩し給ふ鷹の事とは
紙とえく鷹狩の始之　力草　鷹の子をとらへて放さしと木の根をとるとつかひとるといふ
鷹(ハヤ)ぶさ　鷹の羽二ふるをかはりにとるをいふ 作木筆ふるをいふ　鷹匠　鵜
追鳥狩　鷸　鴨　小鴨　鶺鴒　水鳥
寝鳥　千鳥　氷魚(ヒヲ)　紫鯛(コノシロ)　網代(アジロ)

作蒟 生海鼠 ちくこ 金ここ 鐔
埴鐔 石花 くろめ 䲅 鮫皮ふぐ
紗 鯨 歯朶 蘘 鯨と実 作之 抜真引
抜焼 鍋焼 納豆汁 廿五大根のふろ吹
そそ湯 生姜酒 玉子酒 寝酒 奥酒
十一月 黄鐘 律 大雪 節 冬至 中
仲冬 周正 復月 暢月
志も月 霜降月 神楽月 雪見月
お霜祭 上卯 大和住吉大神宮 宍師 恵師 菅本 鴨化伴虫 日前ホノ孫宜各支幣と
吹革祭 八日 豊明節会 中辰 当年ノ稲ヲ神ニ奉リ臣ニモ賜フ之
子灯心 月上 鉢叩 十三日 子祭 甲子
為護神 十六日 天王寺 髪置 十五日 袴着 日 帷初 日
日蓮のかつら 日蓮の忌 小忌衣 山藍の紐
報恩講 廿二日より廿八日 一向宗 大師講 廿四日 天台大師ノ忌日之 神楽 申
宇賀神祭 廿日 里神楽 ヲホタキ 御火焼

○かぶき足袋 冬至梅
鵆 鷦鷯 千鳥 膝 寒さむ
薄氷 霜 厚氷 氷る 氷柱 垂氷
雪焼 雪おろし 霜柱 霜除 霰
雪車 ソリ 樏 カンジキ 雪沓 深雪 杜父魚 カクブツ
鰤 フリ 雪着る ぬくめ鳥
足をあてめ 寒ごゑ 寒念仏
と唱ふる 寒中六十日の間
生姜

十二月 大呂 律 小寒 節 大寒 中
季冬 殷正 臘月 極月
志はす 三冬の月 梅初月 春待月
臘梅 早梅 子禄 寒竹の子 孟宗竹
えのころ 鰹 八目 鮭 ワカサギ 煤掃 スヽハキ
網代 ちどり 納 茶の湯 炉ふさぎ
豆腐 ふやき 水らり 寒ざらし
寒作り 寒垢離 寒声 声たかふ

乙子の日　川渡餅　正月事始　十二月十三日関東八日

臘八八日　臘月　中ニ近キ辰ノ日　佛名　十九日より廿一日まで禁中ニテ修行ノ名

を唱え仁明帝寶亀五年ニ始ル　ふけ猫　仏名ハ十九日より廿一日ニ師走　大灯　是ハ大徳寺

年内立春　新嘗子　節分の夜大宗新嘗院堂デ男女通夜スル事之

節分　年越し　除夜　追儺　オニヤラヒ　ナヤラフ

豆まき　恵方　福内　鬼外　鰯くり

鰯さし　宝舟　獏　日札　厄払ひ

厄おとし　悪魔払ふ　大年ノ夜ニ云ル年ノ悪ミ上リ運気ヲ以テ来ル年ノ吉凶トスル之

禰宜の縄る掛　十日　和布刈神事　十日

五條天神参　十日　おけら日

○歳暮　歳末　別歳　守歳　分歳

嘉平　南至　謁歳　季冬　栗烈

陽向　維離　雞乳　年尾　年夜

晩年　除年　終年　暦軸　晩節

年忘れ　年籠り　年ごろ　年次の流れ

暦の果　日出別れ　日出近き　古暦

札納め　衣配り　年忘れ物　門松の姿

煤払　ふくさ　煤洗ひ　餅突

餅むしろ　小晦　大三十日　煤竹　年木

年の市　神折敷　神の松　山草　栗

行く年　暮る年　年いなる年

年の瀬　年の暮　年の名残　年の際

三冬尽く　冬籠る　暮の春　年の湊

年の泉　春を急ぐ　春支度　春近き　春遠隣

□附り雑の詞

桂夫　桂秋　芦　苺　藻

蔓　棚　蛤　鯛　鯔　鮹　鰻　鶴

鷺　鷺　鳩　鰻　虹　日照り　雷　電　樋

籠風　菰　村雨　清水　蓮生　秋雲

杉桃　松子　梅干　梅漬　毛虫　蓑虫

鶉鴉　鴨沓　山鳥　都鳥　小鳥　秋　渡り

藤冷　墓参　掛乞　年次　扇

扎扇　埋火ニ　麦飯　籠　梅蚕　桐蚕
名月　ハ戸　つのくむまにに葛　松の緑　浅青京
田ニ作り　軍記実　望月夜　柚べし
うち栗　蜻蛉の巣題ハ　鶉の後　あまりうち
戸の嗚子　あらわれ糟　昨日の好無　さしも宮
亀花落葉ニ強さる句　布　織しても
右其場をあるまき余ハあえて人承て文し
一躰くの草木草類句悋吟物ニ粉色を
其季ハ指かゝし極月ものくるとあり
魚鳥獣なも吟物ニあ某ハゝ其季ハ
指分りし其類をわけるを

○経正花ハ宗匠の方一両代様の折之　出ツ哉ニ
季ニ取捨ある之事
桃を其とある　ハ実又花の其題絡ある方ニ
梅を秋ゝある　ハ花又実の其題絡ある其之
経花る実ヶ時は句ハ其時の其冬ゝに入

桔ハ花のかニ其題ある一両流其ニ發之
峯入に収其ト　逆秋二度ありとも峯入ト斗ハ秋之
釈奠ヒトモニ秋其　秋二度ありとも其之枝ト斗りてハ秋之
藪入秋其　二度有とも其之枝ト斗りてハ秋之
雛三月九月　二度有とも其之枝ト斗りてハ秋之
すべて其論の傍もさ方へ付て之
野ゝ口立圃夜話ニ云七十二候花信詩抄
季誹諧ニハ取捨するゝ之詩歌をもはし
候ニ螻蛄鳴ハ夏詞ニ鳴蛙秋ニわまとも連
誹にもよ其之和哥ニ牡丹其花信懐ニ云
ことをと連誹ニ其夏之此ろうと云し
もして詩哥候を川戒詩もあそて決る義
季ることを見出し誹諧を猶乱きべし又回前
誹諧通用の四季正月元日ゟ極月ニ到り
細く委ヶ右る託あく不通なるか詩哥候
の季不ニ用　此方の旨趣負九通俗志載之

○年中諸国祭礼

○正月

削掛の神事 浅草 元日 ヲタキテニテ名ニヨリ 鬼岩寺天狗宴 二日

初卯 住吉 生身供 正月十六日 天王寺 葉採川神事 七日

住吉御弓 十二日 榊子既神事 十四日十五日十六日 いセ

花灯会 十五日 灯ノ数三千余ヲ拜スル也 三穂祭 十五日

厄神祭 八幡 十九日 蘇民将来 吉田法楽 十九日

初天神 廿五日 初不動 廿八日

○二月

春日祭 上申 大原祭 亥 水門祀 初午

摩耶祭 初午 稲荷 行基祭 二日 涅槃経 九日より十五日

訓読会 九日より十五日 常不会 真如堂 十五日 北野八講 廿日

誠堂八講 八日 时宗会佛 彼岸

○三月

天王寺経供養 二日 粟津祭 三日 一条寺祭 廿日

吉野会式 十日 禮拜講 十二日 十三日 若石清水 十五日

比良祭 十五日 勧学会 十八日

○四月

大神祭 上卯 稲荷祭 日 八幡祭 上巳

山科祭 上巳 多賀祭 日 堅田祭 上巳

平野祭 上申 嵯峨祭 日 松尾祭 中申

南十条 上申 南宗祭 上酉 新宮祭 上巳

山城祭 八日 新田祭 四日 廣野久世祭 廿二日

菅宮祭 上午 中午 中山祭 中酉 鴨縁祭 小亥

吉田祭

○五月

松本祭 一日 藤森祭 五日 宇治祀 八日

室祭 十三日 今宮祭 十五日 両社祭 廿三日

最勝講 於清涼殿之

○六月

津島祭 此祭ニテ挑灯多くあり 十四日 十五日 櫟田祭 十四日

芦刈舞 十四日 十五日　悩多祭 十六日 十七日 志波多祭 十七日
座摩御祓 大坂 廿一日　上難波御祓 大坂 廿二日
天満御祓 廿五日　住吉御祓 晦日 同夜祓
愛宕千日詣 廿四日　橋立祭 廿五日

○七月

ちきやま祭 七日　北霊祭 北野 十八日

○八月

天神祭 堺 二日 四日　水村祭 大寺 二日 如衆 小社祭 四日
白鬚の開帳 五日　敦賀祭 十日 志賀の浦祭 十五日
忍浦祭 もつ 十五日　宇佐祭 十五日 石清水祭 十五日
菱大臣祭 十六日　北野祭 十七日 西尾祭 三十日
葉名祭 十八日

○九月

泉涌寺舎利会 八日　醍醐祭 九日 能アリ
岩倉祭 十五日　小倉祭 同 居籠祭 十五日 東山
城南宮祭 九日　穀成祭 同 山口祭 中午 同坊

上難波祭 大坂 九日　元摩祭 廿日 木嶋祭 廿四日
小山祭 九六日　津村祭 廿七日 鳴神祭 廿八日
白川祭 十三日　天王寺一条会 十四日
一の宮祭 河内 十五日　天王寺経堂灌頂 廿日
猿王天 廿八日

○十月

○十一月

宗像祭 上卯　三将西市 いづ 中酉 御祭 廿七日 十五日
掛鳥 廿七日 十五日　春日後の能 廿八日 春日祭 上卯
杜本祭 中卯　中山祭 上卯 貴川祭（キサカワ） 上酉
山科祭 卯　日吉臨時祭 中申
道陸神祭 十六日　加茂臨時祭 下酉
宇賀神祭 晦日

○十二月

吉田大祓 晦日　宮勝寺灌頂 十五日
大徳寺開山忌 大灯忌日 廿二日　五条天神祭 晦日

十二月の名

陬（スウ）正月　如（ジョ）二月　病（ヘイ）三月　余（ヨ）四月
皐（カウ）五月　且（シヨ）六月　相 七月　壯（サウ）八月
玄（ゲン）九月　陽（ヤウ）十月　辜（コ）十一月　涂（ト）十二月

四季の調子

雙調（サウテウ）春 角　黄鐘（ワウシキ）夏 徴　平調（ヒヤウテウ）秋 高
盤渉（ハンシキ）冬 羽　壹越（イチコツ）土用在四季 宮

同五色

青 春 東木　赤 夏 南火　白 秋 西金
黒 冬 北水　黄 四季 中央 土用

歌仙之法

表六句 五句め月　裏十二句 七句め月 十一句め花
名残表十二句 十一句め月　名残裏六句 五句め花

右二折 表ト裏ニて一折ト云

百韻

初表八句 七句め月　初裏十四句 九句め月 十三句め花
二ノ表十四句 十三句め月　二ノ裏十四句 初裏ト同
三ノ表十四句 二ノ表ト同し　三ノ裏十四句 二ノ裏ト同
名残表十四句 三ノ表ト同し　名残裏八句 七句めに花

右四折ニ花四ツ月七ツ也

四十四

百韻ノ初折ト名残ノ折ト合四十四句
右二折ニ花二ツ月三ツ定メ百句ト同じ
百句ノ二ノ折三ノ折をぬきさりたる也

七十二候

百句ノ初折ト二ノ折ト名残ト合タル也

右三折ニ花三ツ月五ツ定 花百句ト同じ
百句ノ三ノ折とゆきをへつる由也

源氏

表 六句 五句め月
裏十二句 七句め月 十一句め花
二表十二句 十三句め月
二裏十二句 初裏ト同じ
名残表十二句 二ノ表ト同じ
名残裏六句 五句め花
右三折ニ花三ツ月五ツ定 花歌仙ト同じ

米字 八十八句

初表八句 五句め月
初裏十二句 七句め月 十一句め花
二表十二句 十一句め月
二裏十二句 初裏ト同
三表十二句 二表ト同し
三裏十二句 二表ト同
名残表十二句 三ノ表ト同し
名残裏八句 七句め花
右四折ニ花四月七ツ也

一餘興の事 往古ハ有りて半かりありいつのほどよりか百句の挙句ニ發句かくるぞ花の折かけて一句ニを次で表八句裏十四句月花等まで嫌ふも花の百句は法式ありも書遣へどして百句続ひ次で續二百句めわりハ續三百韻と呼

百韻ニ一句此物も余興ニ八又出ス

此余興は法り二句去三句去の物八式ニ嫌五句去七句去面去折去物皆く字去へみてもよろし

同字別吟 同附字

御酒ニ 御　田鶴ニ 田　太夫ニ 大
志賀ニ 賀　仙臺ニ 臺　代官ニ 代
関白 関　南西ニ 西　防風ニ 防
傘ニ 唐　一二ニ 一二　度ニ 度
半天ニ 天　紙鳶ニ 鳶　代物ニ 代

恠重ニ 重ル 行ニ 行ク ゆくに 今日モ
由来ニ 由来モ 由緒ニ 由緒モ 拵子ニ 拵子モ
戮ニ 戮モ 春日ニ 春日モ 中風ニ 中風モ
人の目ニ 拜目モ 丁目モ 一天目おも
右の類ハ ほかにも文字の出所よ
より別吟に及ぶべきありと
付合ハ名付そいろは第よ委しく分ツ
名所 国名 并名所ハ 官名 苗字
人の名などに呼フ時ハ名所にあられ
其辺よりうちに山林ニあられ丈の
様とのうちく余ハ略し知べし

付合のこと
家ト家 おもと嫁など云ても
家ニ 家内 家居モ 家の子モ 家督モ
各付合子と云ならへ三句さり嫌ふ

朝ニ 朝日山 星ニ 星平目 神ニ 神子
乾ニ 乾鮭 呼ニ 呼子鳥 紅ニ 紅
鷄卵ニ 鷄冠花 蘭ニ 蘭奢待
雲ニ 雲見草 黒ニ 黒鳶奴
右の類ハいづれにても其文字の出所
よりて別吟にかはりよく
味ひ考ふべし

一古代より表の内嫌ひ来る物の中に
古人の名の事 聖賢 公家 武家 或ハ
歌人 儒者 医者 町人 百姓 能役者
職人 又ハ 神祇 釈教 恋 無常 述懐
哀傷などいふ古人の名表の内
きらひきたりしをいまもかたく是を
又名所の事 神祇 恋 無常 述懐
等をも表にハ名所等 国名 町那

表の内同断

又詠仕の手同断

色帋短冊認やう

色紙ハ厳しき事さへちらしやすハ
前後揃なし好ム所よきさくなるべし
字形ハ筆聲に半の底てらんやうに
引歳合わふせられけし筆法嫌く
なきくとめる事なるべし
名家ハなおそくの集家不押へらに
短冊ハ三ッよ折上一ッか一字ゆけて
ら認題を附ハ上二ッがへ題をたて下
上二ッかの折目より筆留下地へ事う
一寸程明ケ名家〳〵の書
雲紙の短冊ハ八雲ハ上雲をとよ
紫雲を下進君すしハ紫をとよて認む

執筆心得の事

執筆にハ文人風雅ふ丹練
のて八勤りうし又功者ならり
といもつり親るすしよう
うしれ去日此家道ふよてさい拙毎
去とやうよそうおこすやも此り一
流人ょ覚敬ゆしたとく務謝
成ハか人前しも多むとく好し
やきさやうしもへし松うき
句わしうれきし合点ゆいもろ
ともいう候へうしに會乃運ぶ
席定りさる前よ続けてける
きりをとれしあ筈判雑而と
きう然へ入もさもう筆試
懐紙と折かう紙もるよの

下りかちなく宗匠なきしハ之
連中一座さ定まりて末座へ
出一礼して文臺へよりて
右の膝を立懐紙ハ手に持て
書文臺に置也座一順終りて
宗匠式目を執筆よりのおいさ川
と綴ちて再度よくし吟声ス
かこう筆しうしぬ中に高吟に
筆しなよむへし連中の雪
分かるぬハよろしくれも句付
かされしちハ前句再三吟をへ
し座ニ於此人ハ発句ありひよ
前句よりて折紙まで吟し吟ス
かほくし所の不多執筆とし
宗匠座中まりきまさる
かふつきたり

賦物之事

祖師貞徳式會席に法門にも座り
申し八懐紙の連歌に準し謂ふる
なりし式に来誹諧になそくのことく
なりしも事に如何は端作りハ花乃
會ありハ花誹諧の連歌式ハ月なりハ
月誹諧之連歌と書候此里ども
述べてなりけり中の流にハ懐紙ともへかしれ
正保三年丙戌三月十五日於花咲亭宗之
こらへとも世になるまゐる事ゆへに
ものの葉情なる記スたとへハ
面白くかそ花ひらく花ちいさき華
とつかへ発句の時
言の字られへりれトハ　神といふ字とみれト
華というふ文字のとみるゆに
何四とかるへりれトハ　花四　垂四ト書てとよむ

梅何とふるへけんトハ　梅壷ト云ひて他ニ云

蛸何とかへしトハ　ふきと婦ふ　蛸壷と云ひ為る　すし洲ニ云く

余ハ准して志るへし

何と上ニ並ぶ名ハ　上ハ賊ト云

何と下ニ並ぶ名ハ　下ハ賊ト云

一字露訓トハ　香を蚊ト取ル

二字返音トハ　蓑を蚕ト取ル

三字返音トハ　疎を狸ト取ル

三字中略トハ　狐を杵ト取ル

除偏添偏　借音ハ文字ヲ取りて之

余ハ古書ニ委く物ニ能ハ文ニ略

篇序題曲流

篇ハ　人を序ニ抱して起之

序ハ　上段ニ統領を言ふ

題ハ　時の云ふ来ル時との称

曲ハ　春の時の歌をくと　お題しにいひかれ称

流ハ　いと為ちに立派なるを言之

先篇序題の二ツハ大おしめなる称

曲流の二ツハ作者のこゝろやうなる称

春過て（篇）　夏きにけらし（序）

しろたへの（題）　衣ほすてふ（曲）

あまのかく山（流）

歌によみなす篇序題曲流と
聞せるたぐひも見え上の句に
篇序題のごとく下の句曲流
なるもあり下の句篇序題にて
上の句曲流なるもあり一句篇序
題にて四句ともに曲流なるもあり
うき世なりしめて尋よ去乃風
志らしきにけりわが中の月
はかなき世なきと見るを四句にいひ
のべたるなり又序とかくとかき
しる事もあり
ほとゝぎす啼くや五月のあやめ草
あやめも志らぬ恋もするかな
是ハあやめもしらぬといはんとて序
といひけるなり俳諧にハ此歌の
ごとく味ひ深き事をもとめ下の句

曲流の心あらバ上の句を篇序題なる
と為していひ出下の句篇序なる
心ありバ上の句曲流にならでいひ
流して下の句にゆづり下の句を
ひるがへして上の句にいひ合べき
いひ残める句にハ感情秀逸なかる
べし
又有文(ウモン)無文(ムモン)といふ事あり
無文とハ
花さくべき春とぞいひ月を
おもしろきなりとかくれ
なくいひわたしたる
ものなり
有文とハ
月のおもしろきなりとそれ
といはずして聞ゆるなり

字一ツもこゝのかはりたるとも
句のとぢめよりて白妙さまに
といひかけしてはくまかせ
定家卿も心敬僧都も百文の
句ハしを嫌はれたりとさかせ
事なりとの給ひきるよし

但一句すつくと
行きつゝふつひかへ
りうるふ雅称は
無述もあり
又いひかけしたる
ハ高ぞくれやう
無てもあらば一際
よくなるとして耳味
あるへし

六義

古今の序にいはく哥のさまむつなり。からのうたにもかくそあるべき。そのむくさのひとつにハそへ哥。婦る川よハかぞへ哥。ふたつにハかぞへ哥。なずらへ哥。よつにハたとへ哥。いつゝにハたゞこと哥。むつにハいはひ哥。いまのよのうたにこれらのいふことやすくきこえぬ事ハあらぬにや。これとはいふまでもなき事ハよくしらるべきことなり。ふかき事にあらず。

とかくにあらぬ事とおもふべし。さうたうのうたにはかくいふなれ。たゞ深き事とおもふべしといへり。きこえがたくて誹諧の興趣にかなふべし。俳諧のうたはこれにかくのごとし。

貞徳

一風　そへ歌

此ハかぞへ歌とも称す
そへてハ東西南北とそへたる
やうなるの類をいふ也
それとなくそへて詠むる歌
一天に地にふしや花[illegible]
女ハ米ハ明にあり　[illegible]

二賦　かぞへ歌

くちらにかぞへ[illegible]
なぞらへ[illegible]
菜でおし萩蘇芳菜桔梗
韮汁や家[illegible]用へ[illegible]

三比　なずらへ歌

此をなずらへとも[illegible]
[illegible]称[illegible]

切抗の柳ハうぶの[illegible]
下モにえん事[illegible]香車[illegible]

四興　たとへ歌

此歌にゆへつき[illegible]
たとへて興ある称[illegible]古事
古歌などを引て[illegible]
譬喩の名称之
皆人の[illegible]の[illegible]
[illegible]白牡丹

五雅　ただこと歌

此[illegible]
興ある称[illegible]
[illegible]譬喩の名称に[illegible]
[illegible]
[illegible]

おりしも落る滴やむかへる
あにとかく志られ捻する川柳

六頌以呂并奇之

世をあめて係り流くる之

又須頌といふあり英ゑて
歳旦なり

鳳凰も出よのとけき
とりの年

亀う代ハ釜山海まて
門乃松

右六義のうち雅称を染てう
心緒をへし詩建跡とてう
いかしくよう今に代々流用と
なる一称く

古今諸家之発句

古哲之句

川端て涼ぬわやかまた柳
長頭麿

花の雲ハ紙花で霞める山路哉

月書の跡追ふ名乃蔵冗ろ多

なるくと思ハつくえるや蔵らる

志らりしハ紅葉と書乃花の色

涼しさも未廣うり若扇子哉

敷と鯨をとりまる浦ならふ

盛内の守る扇ある也や萩の露

妹の脛ハ紙ふく提て虫の哉

書折ハ暮まてやれ柱の字

してや数色ゑハいつしと葭の雨

去音

花ちりて柳も八ツ塚え月　守武
茂き八結こそも花は涼　宗鑑
花の雪や涼てかも沖の料　貞室
牛の爪の割まても草重ね　仝
無りけふ肘数秒ても為ゟ赤　仝
月よいはまことに見るは姥の風　西武
されある今のとこそれ花涼り　立圃
席ぞ生けて咲ぬも見る柳哉　仝
うくひすと槿の花や秋ハせ　仝
花の世ハうつり夏のかれの花そて　季吟
花も知らぬ光を描いへ涼る柳　梅盛
松緑の姫や味しの花く乃は　維舟
折月よ雪ふく宿あり　安静
末の世といはせぬ花のいろ香哉　貞恕

綱ハ本ハ見ぬ里もありとの月　西鶴
とのつらし言葉や園見ん行　望一
花と見る樽や菱乃浮世との　ステ
世の中や蝶々とまれかくもあれ　宗因
里人のわたりけり橋のしも　仝
る合桜枝折れ袖もれし　令富
常体る花と誰か定めて御肘数　宗旦
いさおれて人中見せん山さくら　一鉄
何んすくて卯月見するもの　如泉
上へと声へ思ひ出す山の花見る　幽山
まちうちくく抗桜こそ入日哉　潮春
いく川やうねりさきるて志　玄札
花見うりいきらき花見林哉　信徳
雨の日ハ門提てゆく杜若　仝

おそろしや女の目鏡の風雪　仝

麦まきく只一川ぶの一つ原　芭蕉

面白ふてやがて悲しき鵜舟哉　仝

わらくと且ハ桜まても梅の風　仝

吉川しき梅のさけめや梅の花　其角

此人ね毎春まで八枚源氏　仝

ゆきさく八紀州松枝いのちかな　仝

青嵐室戸浦まで茎茶の涼　嵐雪

山も川も坊主まよけて今日の月　仝

恵比須よや我よ入るてそ茎の擬　仝

発句切字のこと

和歌のてにをはを以て発句の切字と名つけ古哲より連誹よりひ給へ是を用ひし也是誹も子孫まで発句の姿を守る事風雅の翁や

哉　や　又　けり　もがな　けり　ぞ

さぞ　さぞな　もがな　もがも　かな

こそ　知れ　らしや

やはか　なれど　らん　らし　ぞめ

けりく　いるま　いづま　なれ　かい

いかに　けり　かりそ

いかさ　いづれ　いづれ　ども　なりめ

なりか　いつるか　なし　なし　よ

それど　もなか　なれり

辛のぬ　花咲きぬ　花ちりぬ　あく
雨降らぬ　照りぬ　あく
三ツ捨字　ぬらん　まん　せん　あく
えん　せん
下知の詞　旅へ　出て　指せ　あく
立て　責め　急れ
まし　白し　遠し　けれ汲まのし　とまる
花咲て　雨ふるらし　けれ来まのし　とまる
立し　床し　けれおかし　とまる
右各切字なり
ふのぬ　不切字　花咲かぬ　ぬらぬ　あく
るまし　不切字　ことし　ありし　あく
るる　立る　見る　ぬる　有る　ける
けれ切字たりといへども味発ならず

二字切
おもへバ花に恨んなかりし
三字切
いかに嫌て何ゆゑぞ見る中
三段切
女常　男の衣裳　鶴の尾
大白し
手を家せて富士は見えるを同様
をとし
ちぐさも雪ちるところとし
古妙切
月なかしかつや庭かりもさん

切字なくて発句する事傳へ有
しれハたゞそへりしれ古書にも見えず
のまゝなるといへども皆表斗く少ス
師を求めて書へし秘中之秘ハ
人をえらびて傳へん其中に氷を傳ふれ
とても其機ぬわかぬ人ハ傳へ難きぞ
新らしげなるをもてあそふかゝれ言ふ
つもりに古語もひとつひとつまもりて
らう可悟一の字

発句心得

呪文ハ　句中にありて　小前ふれ
草のぬ　句中にありて　小前ふれ
下知の詞　句中にありて　小前ふれ
おもてにかゝる発句ハ其三分に
ある事よろしかれ師傳を受て
よろしかるべし

四季之発句　切字混雑

春之部

谷底へ夕日ながるゝ桜かな　貞山
衣々きぬの若ハおかし若菜　貞継
月さえて見よ月さすかな　貞富
若草や庭の居らぬ野辺かな　貞德
桜なきも寺めぐる彼岸かな　貞寄
かゝ笠の人めぐる里を花桜　蔦肖
花をたゝえにかゝりて雪の萩かな　貞至
おほつかな入れ山の花を見る　貞竹
白魚や水とまぎれて水の色　貞橋
鶯の住かの柳田螺かな　貞國
遠から傳く枕く押られ　貞甫
いとゞせよ桜さきその誘かな　貞玉

夕日影うつるや八重も柳哉　貞利
琴を組まれ上戸な好まれ蕗の薹　貞山
うかりけれの姿や飛胡蝶　蒼眉
羽衣ハ松よかゝるか根芹哉　有貫
道流きよ八里もに根呂の柳　仙芝
すりくと飛りふてもなし蓋　洲賞
雨と共に日和と共ぬ蛙哉　松里
山くの霞姿や海の上　一歩
一行の声芹よわり鶯啼　貞山
菰引きや堂と飛びて初燕　同山
松陰へ見え室アよ白ぬ縁　蓬山
名水のゆかりさりりも柳哉　芦鴫
其ひ子の縁くる貴くすみれ哉　桐里
手こゝろよ洞のめぐる柳哉　西湖

何とちくさくれ柳か川柳　貞山
仏縁や曲きゝる計と糸柳　指月
日当りの柳よ似家り柳哉　桐弘
京よけの上下座ろし糸桜　涤山
柳くれ女師逍遥朱木柳哉　貞賀

夏之部

誰植ゑで海中は植とぬる云　貞至
池みのよ新と流ろし蓮哉　如芳
露もと恬知ありろも蓮　桐里
松ハさぞ歌人もな好き子規　貞露
まくまや薮るもと山く茶子哉　貞山
行春よ秋のこもほりとまれ　有貫
白氏ハ台式よきまでゆさる歟　貞寄
世中の前所の中も派ゝ我の為　芦官

河豚喰て嫁ふあかつき涼　貞国
昼白や四膳の外と汗垣す　晴岱
佛とはわかざと見ゆるとる跡　貞橋
蓮の葉と見へて踏ぬく蛙哉　芦邑
降るかさかまに浄さうる附る　貞利
浦安の玉乃流利さや神継　湖嶺
町中と暮てしまそて扬若哉　鳥山
松島へ行けく帰る拾ひ船　貞爾
亀乃尾嫁と出そうな重出　芦雁
娘さ立や嫁と見かいれ嫁よ嫁　貞玉
一声と吹くて卯の花咲よかり　松雨
紫流く乱雲呉集る中也跡　貞山
異外のたくさをつくまで若哉　芦渊
邪の花や鶏の宿ありかなも　芦埜

細布のおそざうや笹粽　貞孌
熨斗添ひうら葉之神業　山賢
宮出や葺とこあれ松の下　芦鳶
本の端の洒落しとわき流堂　貞山
その先は畠苗をよき莚　芦鵲
夕立は濡れ人わりなきれ　桐葉
車温泉よ破されもし風邪　貞竹
兄わらぬ歌詠の花と思ひきれ　芦魚
旅人の落ると向へハ牡丹哉　松翠
花本の下ゆくとえへぬるゝ跡　蔦翁
夕涼こまよ家建て尺乃岳居涼　貞漁

秋之部

ちやハくと妬しそまゝ雛捨れ　霍山
初織ハ色貴へかゝげと着きうり　貞奇

九六町寐つゝまぬ箱のすゞみかな　志松
呉竹の節はけ付くくと蜻蛉かな　貞玉
涼しさや秋は降りくと一葉哉　南㴱
こぞの小ぬけ入つて蝶に松の声　貞利
夕霧と酒に粥なん葉月の雨　芦管
湯豆腐と煮まきる名の霰　渕魚
青柳酒醒て長からむかな　延山
行秋は涼へ帰りて白木槿　貞甫
美擲や姉の切くるむ桜哉　有貞
紅葉の見事まかなぬ芭蕉哉　貞賀
宿借りて涼しくもそれ蟋蟀　其丸
姥もまぬ月見は夢のはつ時雨　貞全
名月や妻と去れぬ迄小夜　貞国
筆遣ひの梅と男の字書芭蕉法師　蔦翁

方丈は八千坊主も柘榴の雨　貞甫
澄ゆ月一致に輝く楼主の秋　錦山
提灯や十二月の緑の海より　貞山
花野むや一里おくれて後の空　園盈
笑ひみ気に掛けて来るは羽根　芦英
稲と逗る嵐ともえさ萩花哉　桐和
家は江戸の浪るゝと萩の花　渕柳
隅田の遣と見ゆ下道具の一葉哉　貞山
蜻蛉は鳴ても蝶も紅葉かな　芦沼
紋をぬ国のそりえぞは霜　貞漁
鶴の名を知て千鳥一声　貞橘
そこなる紅梅と枕に梅の香　貞山
おそろしき角に鈴りや鹿の声　其伏
秋くろくなや紅葉の朝　としを

蛸ハ神の恵よと義なり　貞竹

冬之部

関守の辟睡せしる衛の菊　貞格

浮草れ葉よ風ハちらく初時雨　山雨

板庇よるれし夜のちらしれ　山竜

初嵐よ小雲と雲よと銀の雪　悦山

初雪やゆつとしまる滝紅　貞賀

晩鐘と三ッ四ッ消してむしる時雨　貞竹

一ッ家れ松の暁来哉　貞漁

鐙ある人僕よ滞りさ小鴨の霜　陽山

山くもる別元やくるゝ木立　如山

浅ぐりし火縄の端ちや網代籠　旭山

その後へ萱葺代ハ散落葉　貞山

昨方れ浪よ生るゝ千鳥哉　松山

掘ハ武川ともわり枯野哉　若林

三夕ハいさ炭竈の寒さかな　桐之

振上げくるの尾煙りかな　貞

初雪の雕りぬハ帆かな　山鬼

首筋こそ寒て切落葉哉　貞室

埋火や遠てぬさせ我老なり　芦葉

鍾子へハ月ならぬ雪の庵　周賀

行枝へさるつさと照月て時雨哉　貞山

十月もちるぞさき我や炭俵　梓子

本指やはしくてれの冬　涧水

山中とハ絶冬よりて巨燵哉　芦畦

下枝へ月ところ落葉哉　三邑

滞しされ都ともくや小夜時雨　延山

山の端へ入れ日代粉の落葉哉　恒山

神事やゆるまい物見に作りなるよ　百貫

花みの白よひろしおちる葉がな　星山

枯々のかくけバ動く芦の根か　若管

氷紀よ名所の芦さへ消るか　貞山

風流人花すさしやく錦の年　芦雁

庭濱の松の下紫ハ消ゆ也なり　芦舟

雪ね秋か雪あるる物も錦ぞうら　貞利

この冬も社以外へうらし菜喰　貞玉

塩となし私れど塩やむかしへ　貞国

野瓶の芝生ねけうり消る哉　貞福

ぬすの錦残り楽袷和　蓄斎

冬の飛ぶ水まえに寒氷　貞山

枯芦の露晴るるし和歌の浦　奥山

松村の松にこうらしなくり　貞格